

## 学協会ファイル

### 京都市合成樹脂研究会

#### 1. 概要

戦後間もない1951年に京都合成樹脂研究会は設立された。当時は、原料、装置、そして何よりも情報が不足し、企業の行く末は見えない状況であった。そこで京都市工業研究所（現、京都市産業技術研究所）が「これからは合成樹脂だ」ということで興味を持っていた企業に情報交換及び勉強の場を作ること呼びかけ設立された。設立時期に湯川秀樹博士にも特別講演を頂いている。以来60年以上に亘り、合成樹脂関連企業、技術者を会員とし、合成樹脂や有機材料の改良発達のために必要な研究を行うとともに、会員相互の技術交流を図っている。2019年3月末現在の会員は31企業であり、成形加工、金型、歯科材料、模型、接着剤、ゴム、印刷、コンパネック、繊維、商社などの異業種から構成されている。

#### 2. 活動内容

##### ① 技術セミナー、見学会

最新の情報収集の場として、技術セミナー（2～3回/年）、企業見学会（2回/年）を実施している。2018年度は、セミナーとして「CNTで創る新素材、新製品（10/11）」、「自動車に貢献するプラスチック材料・技術（2019/3/13）」を開催、見学会として尾池工業㈱（6/13）、東レカーボンマジック㈱（11/21）を訪問し、最先端の材料、加工技術の普及を図った。

##### ② ホームページの立ち上げ

2015年よりワーキンググループを立ち上げ、2018年より本格運用を始めた。遅い立ち上げであるが、実行委員及び会員のアイデアをまとめた充実した内容となっている。一目見ると研究会の活動、会員企業の活動が分かる。ぜひURLを訪問頂きたい。

##### ③ なんぞこさえる会

「なんぞこさえる」とは「何かを作ろう」という意味の京言葉である。会員同士がフレキシブルに繋がり「新しいモノづくり」に挑戦している。京都ならではのものづくり、例えば西陣織と合成樹脂の融合・商品化など、異業種集団という特色を生かした活動である

#### 3. 最近の課題と対応

日本のものづくりが危ぶまれて久しいが、依然と

して打開策は無く、その衰退を感じる。海外の台頭と少子化が最も大きな原因であると思うが、シニア世代の知識、経験、気合は間違いなく世界一である。これを如何に次世代に伝承していくかが重要である。一方でICTの進歩は目覚ましく、これに乗り遅れることは許されない状況であるが、これは誰しもが手にしている。他社、他国に負けない技術開発には、やはり人と人との繋がりが欠かせない。先人達の技術・心の伝承、次世代人材同士の交流のための場づくりのため、魅力ある事業の実施を心掛けている。

#### 4. おわりに

当研究会のシンボルマークを模した徽章を紹介したい。このマークは田中康夫前委員長が、アルファベットのKとP（京都とプラスチック）、そして∞：無限大の発展をイメージデザインされたものである。これを会員企業数社が徽章に仕上げた。研究会内での異業種連携の一例である。今も宮本研二委員長の下、会員各社及び外部とのネットワーク強化を図る活動を進めている。



京都合成樹脂研究会のシンボルマーク  
(会員企業の技術を集めた徽章)

- 団体名称：京都合成樹脂研究会
- 代表者名：委員長 宮本 研二
- 所在地：京都市下京区中堂寺粟田町91  
(地独)京都市産業技術研究所内
- 電話番号：075-326-6100
- URL：http://www.kyoto-gouken.jp/